

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフの採用時には、事業所の理念を丁寧に説明し同意を得て入社してもらっている。また業務は理念を基に介助を実践している。	「自分が住みたいホーム等」の理念は来客、採用面接者等の目につくよう事務所に掲示しています。理念の実践として、入浴に際し利用者同士が談笑している場合は、時間をずらして入る等の配慮をしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域からのスタッフ募集に力を入れている。コロナ禍ではあるが地域イベントにはお声を頂き、間接的に参加をしている。	地域でのスタッフ募集を目指し、現に町会役員のスタッフがいます。クリスマス会はコロナで参加できなかったが、町会から利用者宛にプレゼントを頂きました。相談員とは地域ケア会議等で話し合っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	船橋市主催の【まちかど案内所】の協力事業所として身近な窓口として努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症対策として未開催。	コロナ対策のため開催していません。文書での開催もありませんでした。	コロナ禍であっても文書、ズーム等による開催を期待します。運営推進会議は地域密着型サービス施設として地域との繋がりを維持する大切なツールですから。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域ケア会議の委員として地域の問題点解決に尽力していると共に、事業所の報告を交えながら相互協力体制を築いている。	地域の多方面の方が参加する地域ケア会議での委員として認知症ケアの提言をしています。介入が必要な個別事案を検討する個別会議は市職員始め専門家が集まり福祉制度の利用までをサポートしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回の研修を実施。日頃のケアでも身体拘束に繋がっていないか職員同士がお互いのケアを意識するようにしている。	身体拘束については、研修も実施し、職員同士が日頃のケアの中で気付かずに身体拘束に繋がる言動をしていないか意識していません。スピーチロック等の言動があった場合利用者の立場を考え支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員必須の社内研修を実施している。また特に管理者は虐待に繋がらないよう、小さな事から問題意識を持って情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用されているご利用者様もおり、後見人を務めている司法書士など専門家から情報をいただいたり相談したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書及び重要事項説明書の読み合わせは必須としている。疑問や不安点は読み合わせ時以外でも、気付いた時にお問い合わせ頂けるようお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様とは入浴時など第三者を気にしない環境下でご要望などを聞き取れるよう努めている。またご家族とは電話・メール等を活用しご意見をいただける様努めている。	利用者の本当の意見を聞くため他人を意識しないで済む入浴時等を利用しています。家族はコロナ禍のため電話、メール等を活用して意見を聞くよう支援しています。また、窓越し面会を実施している方もいます。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	新型コロナウイルス感染症対策の一環として集まる会議は実施していないが、管理者は個別対話に力を注いでいる。また内容によっては代表者等と共有している。	管理者は、職員との間で個別に対話をするよう注力しています。スタッフの都合の良い時間帯に実施し内容によっては代表者も同席します。コロナ対策で職員全体が集まる会議は実施していません。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法、介護保険法等の関係法令の改正には専門家を交えて迅速に対応し、都度、就業規則は改定し全職員がわかるようにしてある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や実働に応じた階層を定め、レベルに応じた研修・実践に取り組んでいる。次のレベルが目指せるようバックアップをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内にある90%超のグループホームで構成されている連絡会に加入。役員を担う事で異業種や他事業者との交流を継続し情報交換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人は勿論、周りの方からも情報収集し、声にならない不安や要望を引き出せるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の申込時に一番初めにお伺いし、入居で解決するかどうかを一緒に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族だけではなく担当ケアマネなど各関係者からの情報にも耳を傾け、社会資源等の活用も視野に入れて支援を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	立場の逆転を目指し、ご利用者様にお礼をいう機会をどれだけ設けられるかを念頭に、人と人の関わりを重要課題としている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人を中心とした支援の輪の中に入れて頂くという認識で、何かあればまず連絡・相談の体制をとっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は感染症対策の一環で外出は出来ないが馴染みの場所をグーグルマップで見たり、ご家族や知人との電話や手紙の交換にはご協力している。	コロナ対策で外出が制限されるなか、グーグルマップを利用し、馴染みの場所を見るなどしています。事業所から家族へ書類の発送の際、利用者が手紙を添えて送り定期的な文通の楽しみができています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場面場面で関わりあい方が違うので、スタッフは関係性を見極めて仲介役に回ったり、一緒に過ごしながらか関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もお手伝いできる事は対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報だけにとどまらず、新たな暮らしのご要望にも耳を傾ける努力をしている。また困難な場合はご家族をはじめとした関係者からの聞き取りから推測している。	ホームでの新たな暮らしについても利用者の意向を把握しています。例えば入居前は独居で片付けができなかった利用者の場合、入居前に得た情報をもとにスタッフが手伝って快適なホームでの暮らしを得た例があります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、担当ケアマネ等の関係者からも必ず聞き取りを行い、入居前の暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報をうのみにせず、スタッフの目や耳で現状を確認し、お一人お一人の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の生活に対しての意向から、スタッフやご家族様、必要に応じて医療職とも相談し、計画書作成に努めている。	介護計画は利用者の生活、健康の状態、意向等を日々観察し、その変化に応じて作成しています。作成には、本人、家族のほか、管理者、スタッフ、ケアマネ等で検討します。必要に応じ医療職も参加しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子媒体に些細な変化や様子を記録する事に努め、口頭での申し送りにて各スタッフと情報共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナ禍の影響もあり、希望されている外出や面会に制限があるなかでも、事前の健康状態の把握や感染対策を行いながら、できる限り希望に添えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の影響がある中で制限が続いているが、感染拡大に注意して訪問カット等のサービスが受けられるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時には事業所提携の医療機関をご案内するが、ご希望があれば入居前の医療機関での診察を継続する事も可能。	定期受診は内科：月2回、皮膚科・精神科：月1回、訪問歯科：週1回です。その他、やむを得ず外部受診(施設の協力医療機関以外の受診)は基本は家族の対応となるが、必要に応じて施設でも対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の勤務時に、電子媒体の記録の他で口頭での情報共有に努めている。必要であれば電話相談は24時間対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを用いて、出来るだけご本人の状況を詳細に伝え、安心して入院生活を送れるよう努めている。又、コロナ禍の影響で見舞いに制限があるが、入院先やご家族様にはこまめに状況を伺い、退院後の生活支援についても相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には必ず重度化・看取りに関する事業所の指針をご説明し、同意を頂いている。適宜終末期のご意向を伺いながら、医療職と連携を図り、必要な際には関係者で話し合い、看取り介護へ移行している。	入居時に説明し、同意を頂く書面は「重度化した場合の対応に係る指針同意書」と「看取りに関する指針」の2通で、契約書と一緒に保管しています。昨年の看取りは、男性1名・女性1名でした。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年事業所内にて、消防署による心肺蘇生法やAED使用法について講習をして頂いている。又、マニュアルは所定の場所に設置し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練では、ご利用者様へ事前告知をせずに行い、実践に近い形式で行っている。	消防署員から必ずアドバイスを頂き書面で保管しています。日頃の挨拶をはじめ、【船橋市高齢者まちかど案内所】として地区の相談窓口を担って顔の見える関係に努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴や生活リズムは制約せず、就寝、起床時間や入浴時間にもなるべくご本人の希望に沿って支援している。又、声掛けには何事も受容を心がけ、ご本人が納得できるように配慮している。	排泄や入浴時の羞恥心を意識し、声かけには注意を払っています。例えば、排泄での失敗で衣類が濡れた場合でも「汗をかいているようですが…」などと声かけをするようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の様子観察から常に伝えられる機会を多く持ち、変化が認められる時には更にコミュニケーションを心がけている。やり取りの中で、希望や自己決定可能な選択肢を提示している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールや決まった時間に行う事は決めておらず、各自で思い思いに過ごせる環境作りに努めている。共有スペースや自室は自由に行き来して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴やレクなど、こちらからその日の過ごし方を伺ったり、お誘いする等のアプローチをかけたしながらか支援している。日々の整容では主に男性は髭剃り、女性は整髪に常に気を遣っている。又、個々の趣味趣向を把握し、その方らしさを保てるように心がけてい		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳、下膳などの食事に関する一連の動作の中で、各々が出来る所で活躍できる環境作りに努めている。又、食材では季節の物を取り入れるよう努めている。	食事には利用者の好みを日ごろから情報を集めて食材選びを行い、季節のものを取り入れ、季節を感じていただく支援を行っています。利用者ができる事を見つけ利用者と共に食事の準備から後かたづけ迄行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者様の三食毎の食事・水分量をはじめ、間食も記録し、一日のトータル量を把握しながら、栄養状態にも留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方はご自身で、難しい方はお誘いしたり介助にて歯磨きを行っている。又、月に一度は歯科医より、口腔ケアに関する助言を頂きながら活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全介助の方でも、ご本人に無理のない範囲でトイレで排泄して頂く事を心がけている。又、日々の記録から排泄タイミングを図り、できるだけ排泄用具を使用しない事を目指している。	利用者の記録、言動から排泄の気配を見極めトイレ誘導に繋げています。また、排泄の自立に向けた取り組みとして全介助で夜間オムツの利用者が日中はリハビリでトイレ誘導している例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お散歩などの歩行運動を始めとし、食物繊維の多い食品を取り入れる、排便のタイミングを把握するなど、出来る限り自然排便を促せるよう支援に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週二回以上の入浴を促しているが、夜間以外は常に浴槽の湯は沸かしており、好きなタイミングで入浴出来るよう環境を整えながら支援に努めている。	週2回以上の入浴が基本で、利用者の好みの時間に入れるよう夜間以外は常に湯を沸かしています。また、入浴が苦痛にならないよう、音楽を流すなどして、それぞれにあった環境で入浴できるようにしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室では夜間は勿論の事、お昼寝でも気兼ねせずできる様、ご自由にして頂いている。又、人恋しい方はソファでお昼寝されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については特に医療職、薬剤師、看護職との連携を密にし、状況把握や報告を行い適正であるかを常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所をご利用者様お一人ひとりの家と捉え、生活の中で活躍できたり協同出来る事を見つけて出し、充実した暮らしを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お散歩やドライブなどの外出は状況に応じて臨機応変に対応している。	日常的な外出支援としての散歩や外出はその時期により柔軟に対応しています。利用者から海が見たいとの要望があったので、個別のレク(誕生日プレゼント)として九十九里ヘッドドライブを実施しました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様とご相談の上で、現金を自己管理されている方も居るが、管理が難しい方は代理で預かり、必要時に使用できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームにご家族様より電話がかかってきた際には、出来るだけご本人とお話ができる様にお勧めしている。又、ご家族様と手紙のやり取りを行っている方もおり継続できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースはご利用者様の馴染みの物であったり、興味を持つような物を飾る事で、話題のきっかけになるよう配慮している。又、季節や行事を感じられる様な空間作りにも努めている。	リビング等の共有スペースは、利用者が興味を持ち、話題になるような物を掲示するよう配慮しています。写真によると、利用者の塗り絵、職員と共に作った季節に合った掲示物等を掲示しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子席は厳格には決めておらず、その日その時で柔軟に対応できるようにしている。又、ソファ一席も自由に使えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の物や使い慣れた物を出来るだけ持ち込んでいただき、ご自身が安心できるようにしている。又、状態の変化で模様替えが必要な際には、安全に配慮しながらも、心地よさを第一に考えている。	居室は利用者が心地よく過ごせるように配慮しています。使い慣れた物のほか身近な方の位牌や仏壇等を持ち込んで、故人を偲ぶ機会を失わない様に配慮しています。状態の変化に応じて模様替えもしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	ご利用者様の目線での提示物など、暮らしている方々にとって住みやすい建物作りにも努めている。		